

道ばたに見る夏・秋の草たち 市街地の生きもの 広瀬重夫

タデのなかま



「タデ食う虫も好きずき」の言葉があります。辛いのは、水辺に生えるヤナギタデのなかまで、葉を噛んでみると舌が「ピリッ」とします。栽培品の発芽して間もない若葉は紫赤色で刺身のつまとなります。いまから紹介するタデ科のなかまは辛くありません。



写真301、ミゾソバ
10月、住吉川



写真302、ボントクタデ
10月、住吉川

■ミゾソバ

名のとおり、溝や水辺に群生しがちの1年草で、茎は地を這い節から根を出し、のち立ち上がります。葉柄にとげのあるのと無いの也有ります。薄いピンクの花は控えめな美しさです(写真301)。

■ボントクタデ

やはり、水辺によく生える1年草で、高さ1mほどになります。花は穂状で垂れ下がり、まばらについています(写真302)。



写真303、オオイヌタデ
10月、生田川河口



写真304、イヌタデ
10月、神仙寺通2

■オオイヌタデ

水辺や湿地によく生え、よく枝分かれし、節が太くなる大型のタデです。6～10月にかけて、小さな紅白の花をたくさんつけて穂状になります（写真303）。

ヤナギタデは花をややまばらにつけ、長い穂状です。葉を噛んで辛くなければ、これとよく似た花のつけ方をするサクラタデです。

■イヌタデ

水辺から離れた道ばたや田畑に生えます。茎のもとの方からよく枝分かれして、節から根を出し地を這い、のち斜めに立ち上がります。花穂は2～4cmです（写真304）。

[このページのPDFファイル](#)



[トップページへもどる](#)